

## 予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：衛生費 項：保健予防費 目：感染症予防費

### 事業名 特定感染症検査事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部感染症対策推進課 感染症対策第二係 電話番号：058-272-1111 (内 2547)

E-mail: [c11237@pref.gifu.lg.jp](mailto:c11237@pref.gifu.lg.jp)

1 事業費 1,606 千円 (前年度予算額： 1,606 千円)

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,606	803	0	0	0	0	0	0	803
要求額	1,606	803	0	0	0	0	0	0	803
決定額	1,606	803	0	0	0	0	0	0	803

## 2 要求内容

### (1) 要求の趣旨 (現状と課題)

県内では、B型肝炎ウイルス陽性者が2万人、C型肝炎ウイルスキャリアが3万人いると推定されており、ウイルス陽性者・キャリアの多くは、肝炎、肝硬変、肝がんへと移行するため、無症候性キャリアの早期発見、早期治療への結びつけが必要となっている。

また、エイズ患者・HIV感染者数は依然として増加し、当県でも感染者等は年々増加し、令和2年末までにHIV感染者199名、エイズ患者152名が報告されている。

さらに、梅毒患者が全国的に増加しており、HIV検査と同時に検査を行うことで早期発見、早期治療へ結びつける。

これらの感染症のまん延を防止するためには、感染者を早期に発見し、適切な医療に結びつけることが重要である。

### (2) 事業内容

患者・感染者を早期に発見するため、これらの特定感染症に対する検査・相談を保健所において実施する。

### (3) 県負担・補助率の考え方

国 1 / 2      県 1 / 2

感染症予防事業費等国庫負担（補助）金交付要綱

### (4) 類似事業の有無

無

## 3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	52	特例検査に係る謝金
旅費	44	業務旅費等
消耗品費	1,034	検査消耗品等
委託料	441	HIV 追加検査、梅毒検査及び肝炎ウイルス検査委託料
使用料	35	検査会場使用料
合計	1,606	

### 決定額の考え方

## 4 参考事項

### (1) 後年度の財政負担

HIV、梅毒及びウイルス性肝炎感染者の早期発見及びまん延防止のため、今後も引き続き、事業を行う必要がある。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/>	新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/>	継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか  
 B型、C型肝炎、HIV及び梅毒に対する検査・相談を保健所において実施することで、感染者を早期に発見し、適切な医療につなげます。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R)	達成率
						%
① 肝炎ウイルス検査件数		89件	270件			%
② HIV抗体検査件数		225件	550件			%
③ TP抗体検査件数 (H29年6月開始)		223件	550件			%

○指標を設定することができない場合の理由

--

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>○保健所における検査体制の拡充                  平成23年度から引き続き、5保健所においてHBs抗原検査、HCV抗体検査及びHIV抗体検査の無料検査を実施。平成29年度6月から梅毒検査も受検できるよう検査体制を整えた。また、世界エイズデーに合わせ、各保健所が圏域の大学等と協力して啓発を行った。</p> <p>○前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果                  令和3年8月末時点で、HBs抗原検査を50件、HCV抗体検査を47件、HIV抗体検査を92件、梅毒検査を86件実施した。また、HIV抗体検査92件のうち、平日夜間検査は5件であった。</p>
令和3年度	<p>令和5年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%</p>
令和4年度	<p>令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%</p>

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<b>・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断）</b> 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	HIV、梅毒感染症、ウイルス性肝炎とも、本人が感染に気付かないうちに重症化するとともに、他人にも感染させてしまうおそれがある疾患である。 従って、早期発見、早期治療が特に重要な感染症であり、保健所における無料検査の実施は必要性が高い。
<b>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか）</b> 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	毎年一定数が保健所で検査を受けており、陽性者も発見できていることから、感染の早期発見に寄与しているといえる。
<b>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか）</b> 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	肝炎検査については、医療機関への委託（別事業）と併せて実施することで、幅広く受検機会を提供している。 HIV、梅毒検査キットについては、保健所間での在庫調整を行う等、予算の効率的執行を図っている。

### (今後の課題)

<b>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</b> より多くの県民に積極的に検査を受けてもらうためには、早期発見の重要性についての普及啓発が不可欠。
--------------------------------------------------------------------------------

### (次年度の方向性)

<b>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</b> 岐阜県の HIV 感染者は平成 23 年に過去最高となるなど、近年高いレベルで推移しており、積極的な対策を継続していく必要がある。引き続き、保健所における検査体制の拡充を図っていくとともに、積極的な受検を促すための啓発活動を実施していく。
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------